

I E A 石油市場レポートの概要（2016年8月11日公表）
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 8月の原油価格は、世界的な供給超過が強まり、需要の伸びが弱まったことにより、45ドル/バレル近辺の水準に下がった。ブレント原油価格は7月末に40ドル/バレルを割り込みそうになった。
2. 世界的な石油需要の伸びは、その支えとなる低油価傾向が薄れることにより、2016年の140万バレル/日から、2017年に120万バレル/日に減速することが見込まれる。2017年の予測は、マクロ経済の見通しの不透明化に伴い、我々の過去の予測を10万バレル/日下回るものである（それでもこれまでの傾向を上回るが）。2016年の見通しは、先月のレポートから変わっていない。
3. 7月の世界的な石油供給は、O P E C加盟国と非加盟国が共に生産を増加したことにより、80万バレル/日程度増加した。前年比では、生産量が21.5万バレル/日低くなっており、これはO P E C非加盟国での生産減少がO P E C加盟国全体での84.0万バレル/日の増加を打ち消したためである。O P E C非加盟国の生産量は、今年90万バレル/日下落し、2017年に30万バレル/日回復すると予測される。
4. 7月のO P E C加盟国の原油生産は、サウジアラビアが生産量を過去最高とし、イラクが生産を更に増やしたことにより、15万バレル/日増加して、3,339万バレル/日に達した。中東の堅調な生産はO P E C加盟国全体の原油供給を前年比で68万バレル/日上回る水準に引き上げ、8年ぶりの高水準としている。
5. 2016年第3四半期の世界的な精製量は、低迷した第2四半期から220万バレル/日上昇し、記録的な8,060万バレル/日になることが見込まれる。第3四半期の精製施設の稼働は、前年を60万バレル/日だけ上回り、期待される需要の伸びに遅れ、2015年中頃から積み上げられてきた石油製品の在庫をいくらか減らすことになるだろう。第4四半期には、季節的要因により8,000万バレル/日を下回ることが予測される。
6. 7月の間、O E C D加盟国の在庫超過は原油から石油製品への代替が持続し、民間在庫が570万バレル増加して、記録的な30.93億バレルまで膨れ上がった。原油在庫の減少分は、石油製品の平均を超えた1,590万バレルもの在庫増加によって打ち消された（米国では大量のプロパンや液体天然ガスが在庫に組み入れられた）。